

令和2年度 第6回三重県行財政改革・デジタル戦略推進本部 本部員会議概要

- 1 開催日時：令和3年2月22日（月）9:15～9:35
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明 ☆意見・質問）

議題1 令和2年度スマート人材育成事業の最終報告について

●村田スマート改革推進課主任（資料1に基づき説明）

- ・昨年8月から若手職員20名を対象に、計5回の研修を受けたうえで3チームに分け、実践的なスキル・ノウハウを修得する「フィールドワーク」を実施。
- ・人材の今後について、希望者には、新たに設置する「スマート改革スペシャリスト」として、担当業務において活躍いただく。高い意欲に corres 応するため、追加の研修なども提供する。
- ・これとは別に、基礎的な研修を階層別実施することで、県庁全体としての体制をつくる。

●森田こころの医療センター主事（資料1に基づき説明）

- ・株式会社ゲイトの五月女社長から漁業の構造的な問題を見直さないと効果が出ないと学び、緊急度・重要度の高い漁業人口に関する構造問題の考察を行った。
- ・漁業従事者数では2034年には2018年の半分以上に減少し、高齢化が進んでいる漁村もある。スマート漁業だけで人口減少を改善するだけの力はない。移住促進、企業誘致など水産以外の視点とも連携しながら取り組む必要がある。
- ・目先のスマート化が問題解決につながるとは限らない。本当に大切なのは、真の問題が何で、真の解決するための解決策は何かしっかりと考えることである。

●中瀬人事課主任（資料1に基づき説明）

- ・株式会社つじ農園と連携して学んだことは、つながりづくりにデジタルの活用が有効であること。作業効率化で得られた余力や時間を、つながりづくりに活かして実現していたこと？を踏まえ、県の農業DXとして、デジタルによる農業の効率化と、人とのつながりづくりを互いに高め合う仕組みを提案。
- ・例えば、子どもたちに関心を高めてもらうため、ポケモンGoのように、遊びと課題解決の仕組みと取り入れて取り組んではどうか。県内農家、顧客、地域住民が参画する三重県オンラインコミュニティを立ち上げてはどうか。将来的には持続可能なコミュニティ形成や独自のデジタル化に寄与すると考えられる。

●宇平市町行財政課主任（資料1に基づき説明）

- ・県内4市町のRPA・AI導入を通じて、その有効性・重要性を理解。一方で新しい技術導入には「予算」「知識」「作業時間」というイニシャル／ランニング・コストが必要。それを担保することが県庁の真のスマート化が進む鍵である。

- ・①知識不足、②時間不足、③予算不足、④県庁全体でスマート化を推進する気運醸成、⑤スマート化を導入する「目的」の確立、が必要。①～③は組織として、④⑤は職員一人ひとりが対応すべき取組。スマート化を推進する「目的」が重要で、目的を職場や職員が理解することで組織としての対応につながる。

●五月女株式会社ゲイト代表取締役

- ・スマート人材は既存の枠にはまらずに、純粹に何が問題なのか突き詰めて、部署の枠を取り払って廃止したり、必要であれば構造改革し解決に向かっていく。一方で、企業は社会の公器として社会課題に取り組んで、持続可能性を考慮するスマートな企業像が求められる。そういった意味で地域振興や発展に100%コミットするのは実は企業も行政も同じ。
- ・立場は違うが役割分担で、我々企業は何でもするので、三重の未来をスマートにするために、今、推進していけばいいと考える。

●辻株式会社つじ農園代表

- ・非常に長い時間をかけて、根本的な問題まで議論できた。有意義な時間を過ごさせてもらった。
- ・生産性向上してその空いた時間を何に使うのか、メンバーの皆さんが非常に重視したので、最終的にいい提案になったのではないかと。
- ・我々は企業者なので、地域に必ずしも還元できるとは限らない。一方で、今あるものを残していくだけが正しいことだと感じてもない。これからもこの難しい問題と一緒に取り組んでいければと思う。

☆大橋子ども・福祉部長

- ・スマート漁業が一番むずかしかったのではないかと。スマート化が問題解決ではないと気づいたのはすごい。一方で、中長期的側面ではそのような結論になると思うが、短期的な課題に向けてICTの活用をするなど、分類して考察すれば議論が深まったのではないかと。
- ・事務局にお願いしたいのは、若手を人材育成するのもわかるが、アダルト世代が決裁権を持っているため、アダルト世代にもフィールドワークを含めて、取組を広げていただきたい。

☆前田農林水産部長

- ・農林水産部としても、若者に選ばれる魅力ある農林水産業をめざして、その手段の一つとしてスマート化に一生懸命取り組んでいる。お訊きしたいのは、フィールドワークに行く前と行った後でどんな感想を持ったか。

●中瀬人事課主任

- ・行く前は、農業は閉鎖的でほかの分野とつながりが薄いイメージがあったが、つじ農園はドローンの分野や、協会や大学などといろいろと広がりが強い点、無限めし祭りというイベントを開催し、地域住民や東京などにつながりを持っていた点で、つながりがあるなかで農業を展開しており、広がりがあるという印象を受けた。若者に対してもそういった発信はつながっていくものだとして認識した。

☆前田農林水産部長

- ・県としても、農林水産業のスマート人材の育成は、農業大学校や、森林・林業アカデミーや鳥羽商船と連携したりして人材育成をしているところ。今回いろんな気づきがあったことと思うので、ぜひ農林水産部の担当と意見交換の機会をつくっていただきたい。

☆紀平総務部長

- ・県庁での経験もある若手で、実際に現場に行き、来年度から局をつくってスマート改革を進めていくが、今の県庁に何が欠けていて、何が必要か、気づかれたことがあれば教えていただきたい。

●森田こころの医療センター主事

- ・現状維持バイアスが働きがちで、簡単な Excel のマクロ化でさえ、すごく抵抗があって現場で進めにくいと職場で働いていて実感する。今のやり方を変えるという抵抗感を越えさせる点が一番難しいと感じる。

☆鈴木知事

- ・今回、スマート人材育成事業に参画した職員は通常業務をそれぞれ抱える中でチャレンジしていただいたこと、感謝申し上げます。
- ・ご協力いただいた五月女様、辻様には、水産業や農業のことを知らない職員に対して初歩的などころからご指導いただき時間を割いていただいたこと、感謝申し上げます。
- ・デジタル化は手段であって目的ではないということを身をもって理解したことは大変よかった。それを踏まえてこれからも進めていってほしい。
- ・水産業分野チームについては、構造的な改善を進めていくことはもちろん大事だが、スマート人材育成事業として参画したので、先ほど大橋子ども・福祉部長が指摘したとおりの点に加えて、構造的な課題を解決するためにデジタルをどう活用すればよいかという、一步踏み込んだ提案があるとさらによかった。
- ・農業分野チームについては、オンラインコミュニティの案はすごくいい。まさに来年度この案に近いことをフードイノベーション課で実施するので、今回関わったメンバーはぜひ参画してほしい。また、農林水産部も全部局あるいは事

業者の皆さんで関心のある人たちを巻き込む形の取組にしてほしい。

- ・市町 AI・RPA チームについては、①から⑤まで非常にわかりやすく整理してくれた。この5点が非常に重要なことで、これをひとつひとつ深掘りしていくことが大前提になる。とりわけ、「②時間不足の解消」と「⑤スマート化を導入する「目的」の確立については、県庁全体をあげて来年度からデジタル化を進めていくに当たって、特に深掘りをしてマネジメントしていかないといけない。①から⑤までを実施したその次にどうするか、もう一步提案があるとよかった。
- ・デジタル化は手段であって目的ではない。手段であるからこそ、あらゆる分野で活用可能だと思うので、ぜひ積極的にこれからも進めていってほしいと思う。